

地藏經和訓音會 中

和書門

和書門類	一八〇九號	一八〇函	七架	三冊
------	-------	------	----	----

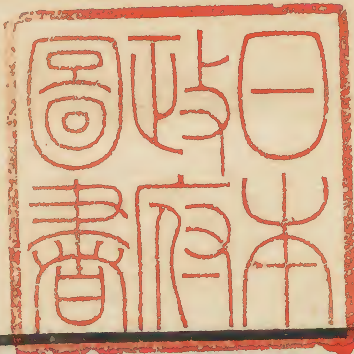
內閣文庫	和書類	一八〇九號	三冊	四架
------	-----	-------	----	----

神道釋門

內閣文庫	
番號	和 18109
冊數	3 ( 2 )
函號	193 131







延命地藏經和訓圖會卷之中

蓬室有常編述

亦除八大怖一者風雨隨時二者他國不起三者自思不叛四者日月不蝕五者星宿不變六者鬼神不來七者飢渴不發八者人民無病

此段ハ八大怖トクハツの怖ト除ク小トク鏡入ル又ハ更テ後ノ詞形ノ風雨隨時ト非時ノ風雨ハ除クト云テ雨風時ホクハ民ノ信業ト云ク世モ持ナクヤ王克ガ論衡ト云書小大平ノ代ハ五日一風

延命地藏經和訓圖會卷之中



十日一雨風條とれ、雨塊と破らば、況此菩薩小帰依、  
とや大衆十輪經、曰若引集福德定入、此定力、  
緒の闘諍、疫病、餓饑、非時の風雨、  
他国不起、他国より侵入、  
よ、他方の国より兵と起、我境内、  
將軍奥別、逆賊高九と追伐、  
小語、我今度皇の勅命、  
若法カと假、  
と既、駿河国清見、  
聞、高九奥、退、免、  
と既、駿河国清見、  
聞、高九奥、退、免、

強、と戦ひ、  
時、小何、  
と拾、  
將、高九、  
然、  
軍、  
河、  
御、  
敵、  
い、





とのころは是れ日月不蝕とい日月  
 暗るべと日月の薄蝕を除  
 めり九日蝕月蝕の志をいぬる  
 運行のころといは是れ不吉の兆  
 といふころ禮記小日蝕する時天  
 子素服して政を改めり夏と記  
 春秋小二百四十二年の間日蝕三十六  
 度ありと孔子一々是を載蓋天  
 変と謹み人主と誠をいへり又  
 増阿含經の説のどは亦時世尊



田村將軍の  
 地藏井の  
 加被力小  
 奥州の  
 逆賊との  
 圖

ろからんや。自思不叛とい自分  
 界内小叛迂の徒黨ありまはる  
 若庶民のふと是といつて他国  
 より起らずとい他家より非分の  
 事とありはる又ハ盜賊等の難  
 らべふ又自思叛るべとい自分の  
 家内眷族上下和合して更ふる申  
 ひわづらば本願經も地藏井の  
 利益二十八種と説くころ中十八は  
 眷族觀樂一十九は諸横消滅す

井村將軍の  
 逆賊との  
 圖



諸の比丘小告るる飛と受る大なる物の阿須倫王小過るる也  
 飛の廣く長く度八万四千由旬その口縦横千由旬或は日と云  
 かまんとする時たまりく又身と化すこと十六万由旬日月の蘇  
 不行日月王と終るるの恐と懐と本處と休んば飛を  
 あると終るるの日月王と終るる光明わびと云とるる今  
 地藏并小帰依只上修羅の慢嗔と降下人王の政道とたす  
 何以と終るる日月の蝕と終るるや星宿不変とい耶謂五星  
 七星二十八宿等の宿とたぐび又位とたぐび筆星客をその変現か  
 らぶと終るる宿の字の字書小星宿の時の音木とあり鬼神不集  
 とい惡鬼惡神等きうう侵とぬうべし本願經小毒惡會歎

及び惡人惡神惡鬼の惡風一切の諸難の終るるの苦悩の  
 らん小只まると地蔵并大士の像と瞻禮して供養する此と  
 山林大海の中は法の惡は消滅するといふ小念をかりて  
 飢渴不發とい飢の食ふといふといひ渴のといふ渴するといふ  
 此菩薩小帰依するといふ難ともいふべし大乘十輪經より  
 諸の有情飢渴小あらんといふといふ地蔵并大士の像と瞻禮して  
 一歸教して供養するといふ一切皆法といふ求むる所の飲食  
 満豆とを得るといふ人民無病といふ并の威神力あり鬼神未だ  
 疾神を除くといふ人民病なくといふ平ぬり昔天皇の毘富羅山  
 のふといふ喬提長者の家月五百又惡鬼小精氣とた集るといふ皆











樂山上人の化益ありて  
龍の得脱とくゆる音



訓祥いさりのことあり此文も  
意の此経とよめは菩薩の帰  
依する者の其身いづも乃百  
由旬のあつて夢らほくの物あや  
ととなく内外大小の災なんど  
のつらとつらまぬり

廻廻鬼神鳩槃荼等永  
不得便

是前文の續なり廻廻と云木

石の変怪と云と云木石本有情化し木石とぬる如木石又化  
して廻廻とぬるといふ楞嚴經の明と貪罪と爲る是人飛牛  
て精ふ遇と成と爲して廻廻鬼といふと云と云鬼神と云夜叉羅  
刹といふ鳩槃荼と云唐と云冬凡鬼といふ又面冬凡ふ似と云  
みと云と云異形の者も地藏并ふ帰依する心と眼まふべし便  
かろるる者十輪經ふ此并ふ帰依する者ハ夜叉羅刹餓鬼ハ  
虎狼獅子惡獸等の恐なきまてと説くふぬり  
天狗土公太歳神宮山神木神江海神水神火  
神鐘餓神塚神蛇神咒詛神靈神路神竈宅神



等

是も前文の續なり。天狗と云ふ天狗星と云ふ星の名は漢書天文志と引く曰く星小尾ありて其星の光下小豹の光ありて其のあり大白の精なりと云ふ此星と云ふは多く兵乱の先兆なり故も太子傳に舒明帝の時此星と云ふ帳英むつんと起るを復と云ふなり又應仁記に寛正六年九月十三日の夜天狗流星と云ふ天地鳴動し乾坤も忽ち下りけ世界も地震なりて地も割ると云ふなり其ありては海も百千万の電光の同時ふたりと云ふ似たりと云ふはと應仁の兵乱ありたりと云ふなり天狗の俗名と云ふ土公と云ふ地の

神なり金鳥玉兔集ふ土公ハ三子大子世界のありて堅牢地神なりと云ふ是なり本願經に堅牢地神の曰地藏并に歸依する衆生ありて其住処の南のうへ清淨の地ふ於て小堂を造り至金銀洞深く地蔵尊の形像と奉作燒香供養する人の居処も十種の利益と得ん乃至我常も日夜神力を以て此人を名護し水火盜賊大小の横一切の悪衰と云ふ皆消滅すと云ふ

○因云諸国在々の四は或ハ野辺町にふは并のそりてと云ふ造り立せりは經文奉かふりてや并に并と歸依するをハ二世安ふりて是なり故にかく小堂を造りて是なり法入機縁と云ふは

大歳神宮といは蓋蓋鉢と按ずる牛頭天皇の后南海安瀾羅



龍王弟二の姫頗梨采女と号し御子八人すはち予太歳神  
 摠光天皇是なり此八人の御子の春夏秋冬四土用の行疫神あり  
 と云宮のまやと列す是太歳神の宮殿と云ふなり則其年の  
 其方と云はたつたといひ子のとつた子の方と居住の宮といふ取謂東  
 の門の番神八大鬼あり西の門の番神六六鬼南の門の番神の  
 七人北の門の使者八人あり百倍の眷属あり守護せりと悉  
 かの書ふにせむなり是といふ時宮といふも理なり山神とい  
 山の神のといひる麦類全書小泰山の神と天孫と号する人の魂魄  
 と司どり萃山の神の白馬ふまきまのたぐひ山の産物といふ物  
 産出す山小依く神と名づくなり木神といふ木の神なり樓

炭經ふりく木のまき七尺廻り一尺かゝる鬼神あり又大壯嚴論の  
 偈ふりく法の草木といふは是鬼神の村なりと云此故小世尊  
 みろふ草木と切まを絨う入りといふ。江海神といふ江と海との  
 神なり古嶽讀經ふりく夏の禹王水と云ふは二度桐柏山に  
 つり淮水の水神と得なげて無支祈といふ乃至水靈山妖の  
 あやれといふ千とゆかむといふより張華が博物志ふりく陽国  
 侯水小瀾とく死すといふ大海の神と云ふはと云ふ大公陰謀ふ  
 といふ南海の神と祝融北海の神玄冥東海の神句芒と号し  
 西海の神と尊叔と云ふは莊子の海若河伯の類是なり水神  
 と云水の神なり山海經ふ天呉といふは面の人ふして足八あり又い



水伯と云々。火神と云々。火の神なり。天竺より惡祈尼と号く。勾  
 府火の神と祝融と云々。本朝より軒恩突智命の云々。是  
 なり。饑餓神饑ハ玉篇ハ蔬の熟と云々。饑といふと餓といふ  
 こと。刻々是饑饑と司いふ神といふ。宇賀神の陀羅尼經よ  
 くと。飢渴神なり。塚神といふの神。是仁王經より。班且王の  
 塚の神摩訶迦羅神の云々。凡そ塚間塚上神廟等あり。此  
 の神なり。蛇神といふ蛇と云々。司いふ神なり。鬼詛神といふ。此の  
 小事と司いふ神。起死鬼神の類なり。靈神といふ。靈ハ魂と  
 訓。故ハ蓋法ハ死。神能といふ。靈と云々。此説より。死  
 死と神といふ。司いふ神。社考ハ八処の御靈と列。云々

是なり。又外記日記ハ三処の御霊と云々。路神といふ。路  
 の神あり。道祖神といふ。又道陸神。或ハ幸の神とも号り。本  
 朝より猿田彦の命と道祖神といふ。竈宅神といふ。竈  
 宅ハ火の神。訓宅といふ。是竈の神宅の神と連絡して。云々  
 たり。抱朴子ハ曰。竈の神。毎月晦日ハ天ノの人の罪と云々  
 告其罪の云々。物の紀と結び。小なるものハを弄と云々。人といふ  
 こと。荒神と云々。の神と云々。又家の神といハ長阿含經ハ曰く  
 一切人民の居所。舍宅あり。皆鬼神あり。空なる処あり。と云々  
 。因云。紀ハ三百日の壽命と云々。等ハか。と云々。罪の多  
 少より命と縮む。日ハ云々。故ハ人々地藏井と帰



依一父母小孝養一師長ふよくはるる時ハ此うらみのるべ  
もん淨しどき度ぬり。等との前々注記す此意ハ此外不  
量の鬼神ハ一々其名奉るふいとまわれば故ふ等とのと

若聞此經是菩薩名吐諸邪氣自悟本空速證  
菩提

是も前文と兼くの結なり。若聞此經是菩薩名との文の如  
前ハ注す。吐諸邪氣との是法カなり井のカふらるる諸の邪氣  
なる煩悩の悪氣と吐ひてすぬる。自悟本空との自然と本未無  
相の真理とさるるんとなり。夫万法一如の真空ハ達せがあふ人と



比丘四畜  
苦の本と  
あり  
圖

やまハ邪氣あらんや是皆有  
相ふ着けが故ハ其苦の本たる  
器物と云ハ爰ハ法句經ハ曰く  
むく五神通の比丘ありて山中ハ  
入樹下の静なる処ハわけて佛道と  
修行せらるるハ左右ハ四の禽獸  
あり謂く鳩と鳥と毒蛇と鹿と  
なり此四畜晝ハ食と求めんあ  
四方ふり夜ハ歸りて処ハ宿す  
或夜四畜たがひハ相殺りて曰く















つひつゝ其子悲〜悲〜朝夕しとす蝶の  
中ふ定〜我父のつゝ〜花咲とふ蜜と花房ふ灌  
〜群蝶ふ供す〜や今地藏并も大悲の蜜と灌〜衆生の  
悪業の者の三途八難の苦惱と救ひ〜得度とわら  
〜復と得〜と割り生死の悔とわ〜わ〜

延命菩薩或現佛身或現菩薩身或現碎  
支佛身或現声聞身

此段の延命并種々小身と現〜衆生と濟度〜人牛と  
説く〜或現佛身と佛の身と現〜地獄と救ひ〜

佛身と現〜獄卒〜人牛〜夫此并の大  
悲願あるふ〜未正覚と〜神通無礙か〜度  
〜佛の身と現〜佛の身と現〜  
現菩薩身とは是并〜又菩薩身と現〜  
二輪の月のうげ万川ふ〜或現辟支佛身との碎支  
佛との梵語〜或現聲聞身との佛の教と〜聖  
道ふ入〜故小聲聞と名づ〜と〜  
或現梵王身或現帝釈身或現珍魔王身或



現毘沙門身或現日月身或現五星身或現七星身或現九星身

是前文のほぎなり或現梵王身とい梵王の身と現じりて  
梵王身とい色界初禪のありて大梵天王なり名と尸棄と云  
ふ項髻と鬘と項髻と云ふ項のめとと訓と補註あり  
此王のうらふ肉髻ありてゆくと名づく云梵といふ離欲といふ  
又の淨行といふといふ離欲といふとありて訓淨行とい清  
淨の修行なり此意の欲界の欲といふて清淨の修行といふ  
此天小生なりなり帝釈身といふ最ふ注りて珍王身とい

珍魔或珍羅此の静息と翻訳すよく悪とほくまのの  
不善業といふのちとといふと十王經の本地地藏并といふ  
善巧方便種々の分身種々の引導ふじれなるの毘沙門身と  
いふ多聞と翻すありてつと訓と福德乃名四方ふき  
故あり四王天の中の北の方と訓と福徳乃名四方ふき  
ハ日月天なり五星といふ螢惑星鎮星歳星太白星辰星なり七  
星といふ五星小日曜月曜といふ九星といふ七星小羅喉星計都星  
といふ又の九曜といふの菩薩の變現自在なるまわりの如く  
或現轉輪聖王身或現諸小王身或現長者身



或現居士身或現宰官身或現婦身

是前文の結とて或現身と説く人なり。轉輪聖王身といふ最上注す所也。小王身といふ天王と大と人王と小とすといふ所謂粟散王者なり。長者身といふ十種の徳と信ありと長者といふ一は姓貴く二は位尊く三は大富く四は威勢はよく五は智恵深く六は年老く七は身の行よく八は禮義をわたり九は上なる人譽す十は下なる者の帰伏すといふ。居士身といふ俗射あて佛道と修行すといふ居士は四徳といふとあり一は不求とて官は二は欲寡とて徳と溢三は財多く大富む四は道

守りて三づつ悟る等といふ宰官といふ宰はつととて訓は官の功能の美わり此意の忠功才能といふ主君となすこと也。形り又の郡わびこの奉行頭人等の民の事を主といふなり。婦人身といふ婦人女人ともめうの按ずる奉願經ふ地藏井の因位も或の聖女とめり又光目女とめりといふ亡母の為佛と供養して地獄の苦ことすぬがため自菩提心とめりて今から大井といふのまをせり然も女人の身といふは二とて一は二つふたのく奉る因縁ありぬと

或現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身

あひがんで比丘比丘尼優婆塞優婆夷身



是も最女小續く或現身と説く所なり。比丘といふ耶の性如く  
 又疏叙して苾芻といふ是草の名なり此草天竺の雪山の生  
 ず性柔軟ありて梗刺なく花葉も潤あり僧の貪恚痴  
 の梗刺なき小喻く比丘といふ名はけり或現比丘といふ死  
 爰ふ一の物語あり最ふ記す氣の死と得脱せりあり八  
 尾村の桑山比丘と云る其頃世ふことく地藏井の化身あり  
 と道俗男女群参せり實ふ迦耒掃せり高德なり中も其  
 利益と云たる者ハ牧奉するありて死者の爲め三途  
 の苦惱と救ひり生具死具或ハ難産と氣付く數日胎とて  
 産ぬふ其名号のれとのせり即座ふ平産や其名号比

札と云ふあざりて生と生と眼最と云る所なり爰ふ執事  
 山田の町小比丘の利益なく膝行の足のちと水と名高は美  
 驗なり然る小桑山比丘の性質孝心深くゆりて父母小孝  
 養一師長よりまきへり其行状の正しき更へり或  
 とれ母堂身まつりし後桑山はり思ひより我菩薩  
 の加被力より斯く衆生と濟度するも雖も母の末世と云  
 ざるんといふ心苦く殊小女人の罪深く佛もまげきり入ると  
 うバ母の滅罪と念と末世の程とも告りり更と祈らんと  
 三尺三寸の地藏尊と彫刻して三七日本願經と修行せりか  
 或夜夢中小美孺なる僧来りり善哉と汝が母の追悼



といふに、かゝる末世と知んたが、同村百性安右門が方ふ出  
 産する者、と汝が母なめと告う、樂山大ふは、早速く  
 安右門、小面會、懐妊の極みとあり、ひて、懐胎せし、六  
 ぶ、とつら、ま、わ、な、く、妊身して、玉の、た、男、子、と、生、れ、り、早  
 くも、樂山、比、丘、小、告、知、せ、る、が、樂山、比、丘、大、小、悦、び、是、我、母、な、り  
 といふ、の、ひ、交、後、う、ま、き、り、小、や、ら、な、が、安、右、門、夫、婦、只、忙  
 然、と、い、か、何、なる、所、謂、や、か、ら、め、の、ひ、う、さ、る、と、仰、ら、る、べき、と、樂  
 山、比、丘、う、ん、た、な、り、我、母、の、来、世、と、あ、ん、為、地、藏、尊、と、祈、念、し  
 け、る、小、夢、中、小、か、り、の、市、告、あり、し、小、斯、や、と、仰、ら、る、が、  
 夫、へ、上、人、の、仰、ら、る、も、た、あ、る、澄、池、あ、る、兔、も、角、も、任、し、奉

多、く、上、人、重、く、仰、ら、る、其、證、証、の、則、小、兒、の、右、の、照、腹、小、一、ツ  
 の、わ、ら、る、と、改、め、見、よ、と、仰、ふ、夫、婦、小、兒、と、い、ふ、と、い、と、  
 中、の、あり、な、が、今、の、疑、念、と、暗、上、人、小、奉、ら、ぬ、此、ら、の、を、耳、知、る  
 者、の、實、も、上、人、の、生、身、の、地、藏、并、ら、う、と、感、ぜ、ぬ、者、と、な、り、う、ら、  
 夫、より、諸、人、益、帰、依、り、是、女、人、の、罪、深、く、身、の、男、子、と、め、り、て、生  
 と、出、り、上、人、の、功、力、あ、り、て、変、女、男、子、の、御、利、益、と、願、り、た、め、  
 の、尚、其、外、小、不、思、儀、の、化、益、あ、り、と、累、を、是、此、御、經、或、現、比、丘、と  
 とい、則、比、丘、の、取、體、と、め、り、出、る、ひ、斯、の、如、く、末、世、の、衆、生、と、導、り、  
 ち、う、り、な、り、比、丘、尼、と、天、多、う、の、物、と、女、人、と、尼、と、つ、め、り、出、家  
 の、女、人、三、百、四、十、八、戒、と、な、り、と、比、丘、尼、と、い、く、優、婆、塞、と、の、梵、語、と



翻訳すまは近事男といふ俗躰あり戒と持ち佛に近づく男  
子の稱なり。優婆夷といふ俗躰の女の戒と受る者と近事女と翻  
すまは又在家の優婆塞優婆夷の二衆と或清信士清信女と統  
ず今の戒名に清の字に略せり

### 或現天龍夜叉人非人等身

或現天龍夜叉人非人等身  
兼文のほききりて是も或現身と説くも天の諸天といふ上の女  
といふ梵天帝釈等の勝も天といふあけあけの惣ての天とい  
ふといふ龍のつゝの龍王といふ眷属等といふ夜叉  
といふ兼に注すもいふ

### 或現醫王身或現藥 草身或現商人身或 現農人身

或現醫王身或現藥  
草身或現商人身或  
現農人身  
兼文のほききりて或現身と  
いふに醫王身といふ醫者なり王と  
いふに上手の医といふ意なり涅槃  
經に佛醫と稱して摩訶支那達  
多病と愈し又藥師如來と  
醫王善逝と号ましが如く藥





草身と薬の草もぬりうひく四大の偏勝と平か二毒れ苦  
 因とぬさる維摩経小却の中小疫癘めま現れ諸の薬草  
 とぬり是と服する者めが如き一の病とのどこまの毒と消と云  
 商人身と人の人と訓至昔駿河國香貫の辺に任る孝女ありし  
 が父母ふ早く別れ一人わがの身すきして其日とわたり居る或  
 時亡母の忌日として寺に詣り説法を聞ゆる中ふ地藏井と諸  
 佛ふ越せせうひく一心念と奉まの宿望成就して未未永  
 成佛とてひかると説くを聞る夫より地藏井の尊像と求めて  
 祈とるるあれども日々の煙をそくなら行ふ兩親の年忌も迎ふ回  
 り来し母供養なせんも便ぬくわらま是の悲しくるが或日

近隣の人ふ語ると曰く我のある因縁あやかる苦ことする中を  
 らうく親の年忌もやうすまごのぬき半ごころまふ我  
 酒と造りて賣り其利益と必くわらう供養なるとゆ  
 三百文の銭とるるなると云わ彼人をわがの銭ゆへ  
 うぬが若損なると時わと必くわらうか女とて若此  
 銭と十日の間ふえは我身と三百文の替りとして下女ふはひう入  
 只親のあぬかある苦ことするもわらう然るわらう涙とわらう  
 なのくろ故其孝心の切かるとせま三百文の銭とわらう女  
 大い喜び是地藏井の尊像とて涙とわらう早く此銭を元と  
 して酒と造ると尚も井と祈念し何卒是とて母の三途の苦



と救ひく三菩提の妙果と證りあふ人と心ふゆんで酒と造りけ  
 るい気味もよく調ひく常の酒とちがひ美味なりき近村  
 より尋ひまうく賞人門前ふ市とぬたりき仍く日ぬ彼借  
 らひく三言文の残ふ利と添へ厚く礼とめくか中へ借人たひふ  
 甚だ又く入用めがうやぐくと深切ふぬく然るふ或日沼  
 津とらふふさう難く用ふて柴の戸とく行々ふ俄ふ大雨降  
 く用度すあども帰りがうと多量なる雨の晴間と待るふ雨はすやく  
 ろりふ降るもくもあく洪水とぬり往來の川の橋あう小家なごも  
 かんぬる身ふ水増る心なげも其処ふ宿うあうと待てぬら  
 んとせうがおも引ぐ今人男も通路をたすふ彼女心中大ふ悲く

我此程母の年忌と訪ふもあふ造りし酒も損げぐさび日たりは  
 らる我志もしがうくぬりて残るの我身あとおびきう南  
 無地藏井と遠拜しから苦くと助けん人と一心ふ祈るるからん  
 へ難儀の人と助けん為とて船とくして人あつたりぬや是弘  
 誓の舟をくんとて早くも舟あふ家寄りく己が家居ふ帰るともふ  
 柴の戸も我うあうるはゆめてぬりてあひまけまはたふよなごて  
 内ふ入酒壺とひきまるとまぶさうさう一滴の酒もなぐるまごて  
 も皆くつきて重なる大ひふ作夫いつぶらんと思ふくかあうと  
 るまが酒の糟山のとく積ようううなふふ糟とくうらぬら  
 中ふ錢三費文余もほくあううあひうあと隣家の人へ問うまが



つねに身は洪水かきつらぬて歸らうふとと海づくと  
産人ふ酒と賣せうふ山王の造らうふ酒と美しと  
人々稱美し賞入目ふ増えううとつふ女不忠儀  
おのひとわらぬ人どことあふ青帽子と着て取相いふ氣  
高れ入酒とあがりて活らふ其中あふやだかこの此辺の河  
と云人のとつ酒と好じう大病と今と限りと成る名残り  
酒とのとと彼酒と吞ふゆふ病とみよと我等と  
此百日余り心あしじが其酒とのと元氣をばしたうとつと算  
なすりのとふ夢さし地と誰入う賣らうけん是地藏尊の御  
かなうん先師礼啓さんと手と洗ひ身と清め御厨子の御戸と開

と見まふと命も六道能化の地藏尊御手ふ酒の糟と搦て  
うへそふ此尊像の我ふうり貧苦と助けらんがめかし業  
とつらうふと何ふ大悲核濟の加被カとつら亡母孝養謝徳な  
うめう入る難うとと甚後ふ身とつら此度世ふきとつら  
ふらぶの奇特なりと遠近の老若男女打ひまてふ多  
とつらうらうとと靈驗記とらふ書ふ出らう農人身と耕作人なり  
前漢の食付志ふまといき教とつらと農とつらと是く爰小筑後国  
八講の地藏井も農人ふらうと田へ水と入まをるをま書ふ記す  
或現象王身或現獅子王身或現牛王身或現



# 馬形身

是文も前のほきまて或現身と説くやあり。象とどのの鼻と牙と  
 かぐー南越の大獣なりとてうーの南越志ふりてあり。獅子王と獅  
 子の二字の梵語ゆりて無畏と翻訳す無畏とありてとて  
 と訓と此意の萬の獣物の王なるの恐れんは是天生の獣物也て唐  
 ありて事類全書とありのふ漢の章和年中ふ安息國より唐  
 士の帝へかりしと見たり。牛王身とありてのま馬形身とありて午  
 のかゝりたり大乗十輪經の餓鬼或は地獄の身も地藏井の現  
 ることと説く役の小角の虎とめて同類と化してと教書ふりてあり

# 或現大地形或現山王形或現大海形

是文も前のほきまて或現身と説くやあり。大地形とあり羅什の曰  
 大海小船と浮べ難風小逢ひすと小危と時一心小念誦せし忽ち海  
 上大地現して安穩なるを得てありとて是なり。山王身と  
 ありて山の王とあり王とあり衆山の首なるべしとて須弥と須弥山と  
 ありて本願經小佛地藏ふりて曰く或は山林川源河池泉井と  
 現して人小利と及び悉く皆度脱せしむとあり大海形とあり大海の  
 形とあり彼惠心の僧都の水想觀ふ入りて室中より水とあり  
 とありと摺集鈔ふりて況や井の威神力ふありてや是と化







此段の地藏井の法身の如く遍を説く如く延命井如是  
 との延命井の名是の最の注の如く。如是との斯の如く  
 法身自體との法身の色も形も如く只自然なる如く自體と  
 して元虚空の廣大なりと云う如く是と云く堅三世と云く  
 横十方の如く此故の遍行なりと云く現種々の如く即ち空平等の法  
 體より無縁の慈悲と云く縁なき如く感ふ應と云く遍く六道の  
 遊行する如く中頃鎌倉の任人の武士兩人相没と云く  
 万夏公用兩人相語らひ勤めたるが平生地藏井と兩人同く志と  
 信心修行と云く一行一修相異なる如く其一人の貧乏  
 と尊像も相好なりぬと安置し香華供養と云く又一人の



富沢の如く形像美しく年月  
 と送る小貧富死生天命あり  
 富る人早く世と過去まり送  
 言ふ平生渴仰せり地藏尊成  
 同後某へ譲るべしとありたるを  
 是と送る如く皈依の佛像とて友  
 の形見と云ひ一方なるが思ひて自  
 身の如く像は壯嚴疎かりと云く  
 傍にお置行身の尊像との如く  
 偈仰せり然る如く木の夢よ



彼尊像出現あり

世と救ふあらうとわきまもろのむと權ら彼を免るも角あり  
と詠吟しありと思へと夢覺し大いふ驚愕急と尊像と厨  
子小納奉す俱ふさる敬なりとて平是新古と恨らうふあ  
び又用捨の相とぬげれふ思召ふらば唯衆生憍慢盛なり  
諸法空寂無我と知らば辺城虚假の行とならん多と哀らふ  
く真実心地の要と示しうぬり。度脱衆生とい度はわすし訓  
と脱いぬらうとあり彼所化の衆生とと解脱の場ふ至しん

能以一善破三界有悉以心善

是ハ前ノ文ト受テ物結ナリ。能以一善トハ純一無二ノ善心ト云  
則善心異なりとありと云ふ一善と云く破三界有とい三界ハ限  
なり何をも分限各別なり如此不同なりと云三界といふ一欲界  
二色界三无色界と是なり。有とい欲有色有青色有とい有相の  
煩悩と破らなりと云く悉以心善といは是世尊と云く地蔵并  
稱美しう人の詞なり夫三界の迷城牢固ふしと云うがれと此并  
よく一カ小破断し方便と以て無明の堅陣と云く是金剛不壞の一念  
未來衆生不能發心但當一心禮拜供養延命  
菩薩



此段の菩提心と起さるのの別と并小帰依すべことと説るあり  
 未耒衆生との前の注のど。不能發心との發菩提心なり。夫佛道  
 と修せんとぬべ先菩提心と起べ菩提心と退失しと修する処の  
 諸の善の是と魔業かろと華嚴經ふ説るも不空三藏が菩提心  
 義ふ發菩提心との安定の誓願と起べ一向ふ一切智辨智と求め  
 必正ふ遍法界の衆生と度すべこと心は是なりと入り一心との信心  
 と云たとい口ふ名号ととあるも心ふ余更思り一心とのじ又心  
 念ずるとりも一筋かべ一向ふ身口意の三業相應してたべ一向  
 頼ととまること一心とのなり。禮拜との智度論ふ三種の禮拜と  
 たてると一向の口禮と一向の口あり南无ととぬる斗つて是と下品と

二の低頭合掌等なり 頭とたきて 是と中品と三の五躰と地ふ  
 つけはしく禮拜とす是と上品との敬いの心深るべ切ぐも益  
 十の供養の儀の前小注す

刀杖不加毒不能害厭魅咒詛起屍鬼等還著  
 本人

此段の并小帰依するのの劍難毒害等とまめぐるま説るあり  
 刀杖不加との刀のかたか杖のはたと訓る此菩薩ふ歸命せら  
 劍戟の難とのどし愛ふ新田氏兵乱の時武藏の国の住人香白  
 新左門高遠と云者敵の中と打破りて壬生の地藏堂ふ走りり







とく厭いとへりのお恐おそくと云いふはむの中の不祥ふしやうと云いふはむの懸けん俗ぞく云いふはむの  
 物ものなりの呪詛まじまじと云いふはむの取とりの注しゆすの起おこすの屍鬼しゐきと云いふはむの起おこすの刑けいり  
 善珠ぜんじゆの白しろくの若人わかしよと殺ころさんと云いふはむの新あらた小捨こすてむの屍しゐと云いふはむの香水かうすゐと云いふはむの  
 て洗あひきすの黄士わうしと身みおぬる木綿きわたん小色こしき二の冷ひやと頭あたまおのけの両手りやうておの刀やいば成なり  
 持もつの陀羅尼だらにの法ほふありて加く持ぢすの彼あつち屍しゐ起おこすの曰いふはむの今いま我われと云いふはむの誰たれと云いふはむのや  
 其その時とき兇者あつち思おもひの者もののなりの則すなはちの其その所ところ行ゆくの殺ころすの以もつの和朝わあさうと云いふはむの其その妻つまと云いふはむの  
 宇治うぢ拾しゆ送そう物もの語ごありの安部あべ晴はりの明あかの鬼おに力ちからありの少将しょうしやうの害がい除ぬくの起おこすの  
 屍鬼しゐきと云いふはむの其その兇あつちと云いふはむの陰陽師いんやうし死しぶる若人わかしよ三さん室しつ小信こしん心こころありの又また觀かん音おん  
 地藏ぢざう并なら信しんありの其その加く被ひ力ちからありの逆さからふと云いふはむの能あたらしむの事ことと云いふはむの本もと人ひとおの付つくのと云いふはむの

延命地藏經和訓圖會卷之中終



